

平成30年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

400年の歴史を伝えるむらづくり

○集団等の名称 中津川区公民館（代表 丸口 憲一）

○所在地 鹿児島県薩摩郡さつま町

○受賞理由

・地域の沿革と概要

さつま町は、鹿児島県の北西部に位置し、町の中央を川内川が流れている。中津川地区は、町の東部に位置し、5集落からなる。かつてこの地域を治めていた島津歳久公を祀る「大石神社」に、各集落が踊りを奉納することを通して、まとまりがある地区である。

同地区は、半世紀以上にわたり県の水稲種籾の生産を担っており、水稲を中心に、肉用牛、施設野菜、梅やたけのこ等を組み合わせた複合経営が営まれている。

・むらづくり組織の概要

① 中津川区公民館は、5集落の公民会長と5つの専門部会で構成され、農業者団体、青年・女性グループ等と連携をとりながら、文化・福祉活動とともに農業振興活動の中心となって取り組んでいる組織である。

② 少子高齢化の中で、地域の活性化を図るべく住民総参加の話し合いを進め、平成6年に「伝統を引き継ぐ“中津川の底力”みんなで力を合わせ、元気で住みよい地域づくり」を将来像として掲げ、「地域づくり活性化計画」を策定した。

③ 平成22年には住民へのアンケート調査を実施し、平成23年に活性化計画を再度作成、平成27年度には計画の見直しを行い、目標の実現に向けて活動している。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

① 農作業受託組合による農地の集積や青壮年グループ「吾友会」による農作業支援等により、地域ぐるみで農業が継続できる体制を作っている。

② 肉用牛農家の女性がグループを結成し、肉用牛経営についての研修、町外の肉用牛農家の女性との情報交換を重ねながら、経営改善に取り組んでいる。

③ 「なかっこ朝市」を拠点とした野菜や加工品の直売、交流活動は、高齢者の収入確保や生きがいづくりになっているほか、高齢者が集うサロンの役割を果たしている。

(2) 生活・環境整備面

① 大石神社に奉納する踊りで、消滅の危機に直面していた「大念仏踊り」を、青壮年有志が中心となり復活させたことで、住民は地域への誇りを蘇らせた。復活を契機に、踊りの衣装等の制作やオリジナル焼酎の商品化等による運営資金の捻出など、地域一丸となって伝統芸能の継承が行われるようになった。

② 青壮年グループ「吾友会」及び女性グループの「夢はな会」を結成し、Uターン者、結婚を契機に住まわれた女性等も巻き込みながら活動をしており、地区内の若者から高齢者までが性別や年齢層毎に交流できる場を作っている。

③ 毎朝、独居老人が玄関先に旗を立てる安否確認など、地域ぐるみで高齢者の見守り活動等にも取り組んでいる。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、地区の青壮年層が中心となり、消滅の危機に直面した伝統芸能を復活させ、これを契機に地域住民の交流と地域活動の活性化が図られている。このことが、特産品開発、若者のUターン、農業後継者の育成につながっており、今後も取組の継続が期待できる。

全国的に、過疎、高齢化により、地域が誇りを失いつつある中で、伝統芸能の復活を契機とした地域活性化を図り、世代間の絆を強めた本事例は、過疎化に悩む地域のむらづくりのモデル事例になり得るものである。